

ダイバーシティウィーク 2025
体験学習に関するアンケート結果（感想の概要）

開催日：令和7年7月2日（水）、3日（木）午後0時40分～午後2時40分
会場：日本大学商学部ギャラリー（1・2号館アーケード）
内容：車いす体験、白杖体験、高齢者疑似体験、妊婦疑似体験
参加者：学生、教職員等延べ91名（アンケート回答者：11名）

今回の体験で気がついたり感じたりしたことについて（アンケートから抜粋）

「車いす体験」

- ・ 自走の場合思ったより段差がきつかったです。
- ・ 車椅子を自分の腕でこぐのは想像以上に大変で、不便さや体力的な負担を実感しました。
- ・ 体験する前と後では、こんなにも移動が不便だとは思いませんでした。貴重な体験だと思いました。
- ・ 比較的、腕力がある若いうちは楽に移動できるが歳を取ると筋力も落ちてくるため、周りのサポートが必要不可欠になると感じた。

「白杖体験」

- ・ 介助する側での参加でしたが誘導するのが思っている以上に難しかったです。
- ・ 時間や距離が永遠に感じました。
- ・ 駅のように騒音が耐えない場所でも指先の感覚をたどって、どの方向に道が続いてるのかを感じ取れるのがすごいと思った。

「高齢者疑似体験」

- ・ 自分がこれからなるだろう状態を経験して、動けるうちに動いておこうと感じました。
- ・ 体の自由がきかずに生活するには、体力が必要な事が解った
- ・ 高齢化によって、関節が曲がりにくくなることを今回の体験で初めて知って驚いた。
また、このままデジタル化が進んでる社会の中で生活していたら視力の低下がさらに悪化してしまうのではないかと思った。

- ・白内障の方の視野だったり関節を自由に動かせない不自由さを体験を通して初めて知った。

「妊婦疑似体験」

- ・買い物に行って重い荷物を持って歩いたり、座って作業するのは、動くごとに負担がかかって難しそうだと感じた。
- ・子供をお腹に抱えて、注意を払いながら買い物や家事をすることの大変さを思い知ることができました。
- ・前に屈みにくくなるため、爪を切ったり、寝返りをうつ等の普通にしていたことが難しくなることに気づいた。

「イベント全体」

- ・スペースが広がったので、ストレスなく体験できました。
- ・スタッフの方々が、このような立場の人はどんなところが大変なのか、についてお話ししてくださったことで、ただ体験するよりも実感を持った経験になりました。
- ・実際に車椅子を体験することで、普段なかなか気づけない不便さや大変さをリアルに感じられて、めっちゃ貴重な経験になりました。
- ・普段は、こういった貴重な体験ができないので、参加して有意義な時間が過ごせたと思います。
- ・障がいを理解するには、やはり障がいに触れる事が一番と思う。その点で疑似体験はとても有効であると思う。